

令和二年度使用中学校教科用図書選定会議

専門調査研究部会

報告書

令和三年度使用中学校

教科用図書採択に関する教科用図書選定会議

専門調査研究会（国語）

報告書

令和2年7月8日

北九州市教育委員会

教育長 田島 裕美 様


専門調査研究部会 種目 ( 国語 )

部長 幸野 英明 

令和3年度使用中学校教科用図書の調査研究について (報告)

このことについて、当専門調査研究部会は、慎重に審議を重ね、別紙のとおり調査研究結果を  
まとめましたので報告します。


副部長 田丸 隆子 

委員 森田 久美 

委員 天野 文 

委員 林田 利恵 

委員 篠崎 琢郎 

委員 大石 仁美 

委員 印

委員 印

委員 印

観 点		発行者名	東 京 書 籍
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度		<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科の目標達成に結び付く内容になっている。</li> <li>・(学校) 内容の程度は、全学年を通して教材の難易度が高い。(1年 p42～「さんちき」、2年 p36「辞書に描かれたもの」、3年 p37「百科事典少女」)</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎編(2年 p230) や、裏見返しの『言葉の力』一覧等により、学年相互間の連携を図り、系統的な指導ができる。</li> <li>・(学校) 「てびき」(2年 p22) に各学習の「目標」から「振り返り」が示されており、見通しをもって学ぶことができる。また、「てびき」の中の「たすけ」は、個に応じた指導への配慮が感じられる。</li> <li>・全学年とも p6 に前学年までの既習事項が分かりやすくまとめられている。</li> <li>・各教材の題名下の「問いかけ」により、問題解決的なめあてを設定しやすい。</li> <li>・「学びの扉」(2年 p54) は、生徒の学習意欲の向上につながる。</li> </ul>
	(3) 分量		<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典の教材が多い。(1年生「移り行く浦島太郎の物語」、「伊曾保物語」、「竹取物語」、「矛盾」)</li> <li>・どの学年も分量が多く、とりわけ3年生の授業時数が少ないにも関わらず、最もページ数が多く、学習内容が多い。(1年 332p 2年 336p 3年 344p)</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜		<ul style="list-style-type: none"> <li>・各単元に練習問題が配置されており、学習の定着を図ることができる。</li> <li>・発展的な学習内容が「資料編」として区別されている。</li> <li>・(学校) 二段組みの教材が多く、読みづらい。</li> <li>・キャラクターを採用することで親しみやすさがあるが、「学びの扉」の人物ちよこっとメモなど情報量が過多であり、支援を要する生徒には集中しづらい。</li> <li>・「話すこと・聞くこと」については、全体的に説明が多く、話し合いの場面をイメージできるイラストや図などが乏しい。(3年 p197～202)</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・行数の表示が分かりやすい。(「・・・」)</li> <li>・字の大きさは、学年ごとの配慮はあるものの、全体的に小さく読みづらい。</li> <li>・2年 p.254「文の成分」は、淡い色使いで、やや見にくい。</li> </ul>
2 選 定 の 観 点			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「A 話すこと・聞くこと」については、豊富な対話例と、話し合いに活用できる思考ツールの提示により、対話の基礎を身に付けることができる。また、現在の社会生活の課題とマッチした題材を取り上げている。(2年 p47「考えを比べながら聞こう」の話題が高齢者の運転)</li> <li>・「B 書くこと」については、互いに助言しあう活動や編集会議などの学習が設定されており、協働的な学びを通して書く力を高めることができる内容となっている。</li> <li>・「C 読むこと」については、「A 話すこと・聞くこと」や「B 書くこと」と関連付けて指導することができる配置となっている。</li> <li>・[知識及び技能]については、「C 読むこと」の教材のあとに「学びを支える言葉の力」が配置されており、[思考力、判断力、表現力]の指導を通して学習することができる内容となっている。(「てびき」の中の「広がる言葉」)</li> <li>・「読書」については、「テーマ読書」や著名人による「私のおすすめの本」など、生徒が興味をもつ工夫がなされている。また、情報活用能力の育成を重視した読書活動が設定され、読書意欲の向上が期待できる。</li> <li>・「情報の扱い方に関する事項」については、情報の整理の仕方や情報と情報との関係の捉え方を、生徒の身近な例を題材に、集中的に学ぶことができるよう工夫されている。(2年 p230～231)</li> <li>・2年の漢詩(p144)では、資料編に川合康三氏の解説があるが、本編での解説が少ない。</li> </ul>

発行者名		三省堂
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科の目標達成に結び付く内容になっている。</li> <li>・学習指導要領に示された内容がもれなく指導できる教材選定がなされている。</li> <li>・(学校) 教材で取り上げられている内容は、学校生活や身の回りの日常生活から社会生活へと広がるように配慮されている。(2年 p. 88 「○○年後の水を守る」)</li> <li>・2年 p76 「壁に残された伝言」は、難易度が高い。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「思考の方法」(2年 p318～)として情報の整理の仕方を一覧にまとめている。</li> <li>・「学びの道しるべ」(2年 p18)には、学習過程が示され、主体的な学びにつながる。また、「思考の方法」や「語彙を豊かに」によって身に付けるべき知識・技能が明確に示され、学習の深まりにも効果的に働く。</li> <li>・裏見返し、巻末折込の『読み方を学ぼう』一覧は、具体的な教材を示し、学年相互間の連携を図った系統的な指導につながる。</li> <li>・三角ロジックを思考ツールとして取り上げているが、他の思考ツールもあった方がよい。</li> <li>・単元名が3学年を通して同じであるが、学年を重ねる中で学習が深化していることを生徒自身が捉えにくい。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の分量は、授業時数から見て適切である。</li> <li>・「読むこと」の教材では、文学的文章が少なく、説明的文章の割合が多い。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(学校) 巻頭の「領域別教材一覧」では、つけたい力が整理して示されており、学習の目的が分かりやすく、学習の見通しがもてる。</li> <li>・2年 pp. 144～145 のグラフ資料が充実している。</li> <li>・巻末の「資料編」は汎用性があり、他教科での活用にもつながる。</li> <li>・「話し合いのこつ」の色分けの工夫(2年 P35～P36)は、ページをまたいで解説されており、分かりにくい。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字の大きさについては各学年の発達の段階に応じた配慮がなされている。</li> <li>・「資料編」の「古典芸能に親しむ」の写真や絵が、適切かつ鮮明である。</li> <li>・1行の字数が多いため字間が狭く、読みにくい。本文の字体が、丸みを帯びており、読みづらさがある。</li> <li>・(学校) 折込資料が多く、破損の原因になりやすく、使いづらい。</li> <li>・表紙は、見返し加工ではなく、表紙の耐久性に課題がある。</li> </ul>
2 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「A 話すこと・聞くこと」については、各学年の第一単元に、「グループディスカッション」が設けられ、合意形成に向けて話し合うことのできる言語能力を育成する内容である。また、学年末には、「A 話すこと・聞くこと」と「B 書くこと」を一体的に指導できる教材が配置されている。</li> <li>・「B 書くこと」については、「表現プラザ」(2年 p114)で、自由度の高い小教材が配置され、生徒が興味をもって学習に向かうことができる。</li> <li>・「A 話すこと・聞くこと」において、読書活動(「ブッククラブ」「ビブリオバトル」)等が配置されており、目的意識をもって読書することができる。</li> <li>・「情報の扱い方に関する事項」については、「情報の扱い方」に特化した単元を設け、グラフや図表などの情報と文章による情報とを関連づけながら自分の考えを深める学習ができる。</li> <li>・「読書」に関する資料は、巻末の「読書の広場」(2年 pp. 244～249 47冊)と教材後の3冊ずつ、「わたしの読書体験」(5冊)であり、紹介冊数が少ない。</li> <li>・2年の漢詩(p132)は解説がなく、脚注のみでは鑑賞しづらい。</li> </ul>	

観 点		発行者名	教 育 出 版
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度		<ul style="list-style-type: none"> <li>・(学校) 1年 p16「文学入門」、中学校1年の発達段階にはやや難しい。p20「桜蝶」は、字数が多く、中学校の国語学習の入り口としては難しい。</li> <li>・2年 p142「孔子の言葉」は、「置き字」等を学習する必要があり難易度が高い。</li> <li>・「総合 (SDG s)」や、「メディアと表現」の漫画や絵コンテのみを取り上げた教材は、目標達成につながらない。(2年 p186「映像作品の表現を考える」)</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> <li>・(学校) 全学年、「読むこと」の教材前の「学びナビ」(2年 pp.14~15)、教材の「目標」(2年 p16)、教材後の「みちしるべ」(2年 p.17)の連携により、見通しをもって学習を進めることができる。</li> <li>・各領域でSDG sに関連する内容を示しているが、どの教材・題材と、どのSDG sのゴールが関連するのかが明確でない。</li> </ul>
	(3) 分量		<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年を通して短い作品が多いため、読むことへの抵抗感を軽減できる。</li> <li>・教材数、ページ数が多く、各学年とも授業時数に対して分量が多い。</li> <li>・全体的に「読むこと」の教材が多い。「情報の扱い方に関する事項」についてなど、バランスよく教材を取り上げる必要がある。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜		<ul style="list-style-type: none"> <li>・行数の表示が分かりやすい。(「・・・」)</li> <li>・教材の最初に示された目標と、「みちしるべ」の中の「振り返り」が一体化しており、教材によってつける力が明確である。</li> <li>・(学校)「学びナビ」の書き込む箇所(2年 p47)は、学習が限定的になる。</li> <li>・2年 (p164)、3年 (p262) 両方に穂村弘の文筆を掲載しているが、幅広く読ませ、思考を広げるという点では適切でない。</li> <li>・単元の始まりがわかりづらく、どこで区切られているかがわかりにくい。</li> <li>・目次の単元に本文から引用した一節を付しているが、単元のテーマとの関連性が不明なものが多い。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・印刷は鮮明で、製本も適切である。</li> <li>・本文の文字が細くて色も薄い。また「詩」教材(2年 p16)の文字が小さい。</li> <li>・本編に使用している紙がざらついている。</li> <li>・「目次」は、配色が地味で明るさに欠ける。</li> </ul>
2 選 定 の 観 点			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「A 話すこと・聞くこと」については、「話す」「聞く」「話し合う」のそれぞれを重点化した3教材が設けられている。また、1、2年生冒頭の教材は、関連する内容のコラムとセットで示され、より深く学習できる工夫がなされている。</li> <li>・「B 書くこと」の「学びを生かそう」(2年 p.39)で他教科や社会生活とのつながりについて触れられていることから、身に付けたことがどのような場面で活用できるのかを意識して学べる。</li> <li>・「C 読むこと」では、図表と文章の関係について考えたり、同じテーマで書かれた二つの文章を読み比べたりしながら、論理的思考力を育てることのできる内容となっている。(2年 p46「日本の花火の楽しみ」「水の山 富士山」日本特有の文化をテーマとしている。)</li> <li>・単元末の「広がる本の世界」では、テーマとの関連性が分かりにくく、関連付けながら読書に広がりを持たせることが難しい。(2年 p89「日本語は泣いている」)</li> <li>・新出漢字の取扱いについては、本文中の欄外にも読みがなや例語を提示するとよい。</li> <li>・「情報の活用」において、リテラシーの面では、系統的に学べるようになってきているとはいいいがたい。情報をどう活用するかを生徒自身が思考する場が少ない。</li> <li>・全学年に設定されている総合単元は、SDG sと関連づけたものとなっているが、生徒が学習の必然性を感じることができるようなものになってない。</li> </ul>

観 点		発行者名 光 村 図 書 出 版
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容の程度は3学年それぞれの段階に応じており、学習指導要領に示された事項を不足なく指導し、教科の目標達成に結びつく内容になっている。</li> <li>・質の高い文章教材が多く、特に説明的な文章については、現代社会にふさわしい題材が選ばれている。(2年 p42 「クマゼミ増加の原因を探る」)</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年間を見通して系統的・段階的に教材を位置づけ、学びの深まりがとらえやすい。(1年生「新しい視点で」→2年生「多様な視点から」→「3年生「視野を広げて」)</li> <li>・(学校) 各教材のあとの「学習」(2年 p24) では、「見通しをもつ」「とらえる」「読み深める」「考えをもつ」「振り返る」の5つの段階が示されており、見通しをもって主体的に学習に取り組めるようになっている。</li> <li>・教科横断的に取り扱おうとする際、関連が分かりづらい。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の分量は、授業時数から見て適切であり、各領域及び分野の内容に偏りがなく調和がとれている。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「話すこと・聞くこと」(2年 p54)、「書くこと」(2年 p34) の学習の流れが、見開き1ページで示され、分かりやすい。</li> <li>・「読むこと」後に「書くこと」が関連付けて用意され、スムーズに学習できる。(2年 p124 「モアイは語る」の後に、p134 「根拠の適切さを考えて書こう」)</li> <li>・巻頭の「思考の地図」の思考ツールは、問題解決的な学習をする際に役立つ。</li> <li>・巻末にある「学習の窓」一覧は、主体的な学習や発展的な学習に活用できる。</li> <li>・(学校) QRコードは、自主的・自発的な学習を促すとともに、個に応じた指導に対しても有効である。</li> <li>・「話し合いの方法」(3年 pp. 242～243) は、説明が簡潔すぎるため、そのページを見るだけで学習できるような説明があるとよい。</li> <li>・巻頭の「学習の見通しをもとう」では、1年間で学習すべき内容と教科書構成の説明、教科書の使い方が示されているが、文字が詰まっており、見づらい。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文の活字は見やすく、字間も適切で、目になじみやすい。</li> <li>・表紙の表面に自然な凹凸があり、滑りにくく手になじむため扱いやすい。</li> <li>・やや鮮明さを欠く写真がある。(2年 p163 「漢詩の風景」、3年見返し)</li> </ul>
2 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「A 話すこと・聞くこと」については、対話・質問、スピーチ、プレゼンテーション、討論、合意形成の話し合いなど、社会生活や他教科の学習の基盤となる多様な言語活動を設定している。</li> <li>・「B 書くこと」については、情報を整理したり構成を考えたりする過程で、思考ツールや図表を用いて情報を視覚化し、整理する方法が示されている。(1年 pp34～37)</li> <li>・「C 読むこと」については、1・2年生で図表を用いた教材が配置され、2・3年生で比較読みを前提とした教材が配置されるなど、読んで考えを形成し、根拠を明確にして意見を述べる言語能力を育成することができる。(3年 p48～49)</li> <li>・(市民・学校) 「読書」については、「読書活動」→「案内」→「コラム」と紹介の仕方に工夫が見られ、図書紹介が充実(277冊)しているため、読書意欲の向上につながる。</li> <li>・「情報の扱い方に関する事項」については、「思考のレッスン」や「情報整理のレッスン」が設けられるなど、3領域の学習に関連させ、繰り返し活用できるように工夫されている。(1年 p52～53)</li> <li>・1年の「シンジュン」と「星の花が降るころに」はいずれも友人関係をテーマにしている。身近なテーマではあるが、掲載される教材数には限りがあるため、違うテーマのものがよい。</li> <li>・3年古典の単元の時期がやや遅い。</li> </ul>	

令和三年度使用中学校

教科用図書採択に関する教科用図書選定会議

専門調査研究会（書写）

報告書




令和2年 7月 3日

北九州市教育委員会

教育長 田島 裕美 様


専門調査研究部会 種目 ( 書写 )

部 長 金子 陽一郎 

令和3年度使用中学校教科用図書の調査研究について (報告)

このことについて、当専門調査研究部会は、慎重に審議を重ね、別紙のとおり調査研究結果を  
まとめましたので報告します。

副 部 長 島元 直美 

委 員 日浅 俊子 

委 員 山根 鼓乃美 

委 員 木 蜜 あや 

委 員 野口 友加 

委 員 印

委 員 印

委 員 印

委 員 印

発行者名		東 京 書 籍
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文字の大きさと配列で、第1学年の楷書から、第2学年の行書への移行がよい。</li> <li>・ (学校)「書写で学ぶこと」が巻頭にあり、3年間見通せる内容になっている。</li> <li>・ 第1学年の毛筆(行書)は、課題の文字「光」の難易度が高い。第2学年の行書「豊かな自然」は難易度が高い。</li> <li>・ (学校)「書写で学ぶこと」の説明は詳しく記述されているが、紙面が整理されていないため、分かりづらい。</li> <li>・ 「基本の点画」(p.10~11)に「右上払い」がない。そのため、楷書の毛筆教材が「大志」となっており、楷書の学習内容を十分に網羅しているとは言えない。</li> <li>・ 行書の五つの特徴をまとめた教材がないため、行書の基礎的な書き方を理解する上で望ましくない。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 書写活用ブックは「人名漢字表」も掲載されており、生徒が自分の記名に対応し易い。</li> <li>・ 文字を正しく整えて速く書くための知識・技能が「書写のかぎ」と名付けられ、各単元に一つ明示されているため分かりやすい。</li> <li>・ 小学校の学習を振り返る内容(p.8)が充実しており、チェックしながら基本的な知識・技能の定着を確認できるようになっている。</li> <li>・ (学校)教材の硬筆文字から普段書いている文字の課題を見出し、解決について考えたり、言葉に表したりする活動が設定されている。問題解決型の学習となっており、主体的な学びへとつながっている。</li> <li>・ 「仮名の書き方と字形」の平仮名の一覧(p.16)が50音図になっているが、古典学習との関連から考えると「いろは歌」のほうがよい。また、仮名の書き方のポイントが説明不足である。</li> <li>・ 手書き文字と活字の違い(p.72)については記述されているが、正誤についての記載がなく、生徒の学習理解に対して不十分である。</li> <li>・ 「書写テスト」があるが、記載されている場所が統一されておらず使いづらい。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 配慮事項、注意事項が多く、1時間の授業の組み立てが焦点化しづらく、説明に時間がかかりすぎる。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ (学校)硬筆を書くコーナーが多いのはよい。</li> <li>・ 左利き、右利きどちらの場合でも教材文字をしっかりと見ながら書くことができるように配慮されている。</li> <li>・ 動画や資料があるもの、国語や他教科の学習に関連する内容のもの、関連する内容が示されたページなど、マークがつけられていて分かりやすい。</li> <li>・ 毛筆教材文字のページにあるインデックスには学習課題を書き込む欄があったり、既習事項が図示されていたり、生徒が確認しやすい。</li> <li>・ 年賀状の例(p.42)に本文がないのは、はがきの基本形式と異なり、指導上不都合である。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ (学校)毛筆教材は半紙の比率に合わせてあり、半紙での配列の参考になる。</li> </ul>

2 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"><li>・ (学校) 各学年に「生活に広げよう」という学習が設定されており、国語や他教科や日常生活に生かすことのできる内容になっている。また、具体的な場面に沿って書写の学びをどのように生かすのかを考えさせることができるようになっている。</li><li>・ 単元は硬筆文字から課題を発見し、毛筆で大きく書いて確認し、硬筆で他の文字を書いて定着を図る、というように、毛筆を使用する学習が硬筆で書く力の基礎となるように構成されている。</li><li>・ 「生活に広げよう 防災訓練に参加しよう」(p.75)で、案内表示や看板などを書くことを想定して考える場面があるが、現実的ではない。</li></ul>
----------------------------	---

発行者名		三 省 堂
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ (学校) 第1学年で、行書についてしっかり時間をかけ、習得する内容になっている。</li> <li>・ 「この教科書で学ぶ皆さんへ」で学習の見通しがわかるようにしているが、中学生生活3年間の見通しとしてはおおざっぱすぎる。</li> <li>・ 全体的に説明が少なく、生徒が何をどのように学ぶのかを理解しづらい内容になっている。</li> <li>・ 「名言集」(p.76)はよいが、作成のポイント(評価の観点)についての説明がない。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ (学校)「書いて身につけよう」で文字の練習が繰り返しできるようになっている。また、練習欄は「線あり」から「線なし」になっており、段階的に練習することができ、個に応じた指導への配慮がされている。</li> <li>・ (学校)「書き方を学ぼう」では、どこに気をつけて、どのように書けばよいか分かりやすく示され、自学で活用できるよう工夫されている。</li> <li>・ 「やってみよう」(p.48,66)では手順が具体的に示され、活動内容が分かりやすい。</li> <li>・ 「書写の広場」の楷書・行書一覧は、常用漢字表のみで、生徒が自分の記名に対応しにくい。</li> <li>・ 筆の運び方(p.10)の、穂先・軸の動き・腕の動きの説明がわかりにくい。</li> <li>・ 「学習の流れ」(p.5)が、ポイントをつかんで書くことが中心になっており、課題解決学習にはなっていない。</li> <li>・ はがきを書くページ(pp.32~33)では、書き方が別ページ(pp.84~85)にあり、お手本もない上に横書きで書いてあるメモや下書きを縦書きで書かなければならず、難しい。</li> <li>・ 最初の毛筆教材であるにもかかわらず、1年「天地」(pp.18~19)ではポイントや注意点が示されておらず、正しく整えて書くことが難しい。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ (学校)各学年の配当時数の中で、無理なく学習計画が立てられる分量となっている。</li> <li>・ (学校)第3学年の授業時数に対するの分量が少ない。第3学年も行書の復習の課題があったほうがよい。</li> <li>・ (学校)第2学年の授業時数に対する分量が少なく、全体的にページ数が少ない。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ (学校)第1学年、第2学年、第3学年と学年ごとに色分けされており、使いやすい。</li> <li>・ 毛筆補充教材の手本の種類が多い。</li> <li>・ 行書学習の組み立て方・課題の内容・分量がよい。行書の確実な上達が見込める。</li> <li>・ (学校)行書と楷書の違い(p.36)がわかりやすい。あとの学習にもつなぎやすい。</li> <li>・ 全体に、説明→毛筆→硬筆→コラムの構成に統一されている。</li> <li>・ 片付け方の動画があるのはよい。</li> <li>・ 点画の組み立て(p.14)は例字が小さすぎる。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子供や筆のイラスト(キャラクター)(p.10)が粗末である。</li> <li>・ (学校)紙の性質がつるつるしており、書き込みづらい。</li> </ul>

2 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"><li>・ (学校) 毛筆で書いて確かめた内容を、「書いて身につけよう」などの豊富な書き込み欄を使って、硬筆の文字に生かすことができるように工夫されている。</li><li>・ 他教科との関連教材 (p. 31, pp. 56～57) は設けられているが、なぞり書きをするだけであり、身につけた書写の力を生かせる内容にあまりなっていない。</li><li>・ 2年「やってみよう 情報誌を作ろう」(pp. 66～67) が日常生活の中で機会があまりない。また、「情報誌」作成の準備のための負担が大きい。</li></ul>
----------------------------	---

発行者名		教育出版
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1・第3学年は、教科の目標達成に結びつく内容になっており、内容の程度はその学年の発達の段階に適応している。</li> <li>最初にノートのとめ方があり、これからの「学び」に対する意識・目的がはっきりする。国語科だけではなく、他教科の整理の仕方があるのがよい。</li> <li>第2学年の行書の課題は楷書に近い。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>(学校)「学習の進め方」(p.8)は主体的、課題解決的な学習が重視されている。</li> <li>筆圧の説明(p.14)が、わかりやすい。横画、縦画などの基本点画と併せて表記しているので、理解しやすい。</li> <li>文字の大きさと配列では、短冊、半紙の書式が掲載されている。また、色々なサイズの紙に、2～5行などで書いている手本を載せているのがよい。作品の最後に、「・・・の詩 △△かく」と記しているのもよい。</li> <li>楷書と行書の違い(p.43)がわかりやすい。</li> <li>「書写テスト」は学習内容に沿っており、評価や人試対策として活用できる。</li> <li>筆記用具や硬筆練習、教材を選択する場面があり、生徒が主体的に取り組むことができるように工夫されている。</li> <li>楷書・行書に調和する仮名のポイント解説がない(p.26, 66)ため、どのように書くのかが分かりにくい。</li> <li>(学校)まとめ書きの欄ではお手本がないところがあり、苦手意識をもっている生徒にとっては難しい。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>一年生で、毛筆の楷書・行書の基礎学習がしっかりできる計画になっている。</li> <li>「学習を生かして書く」(pp.52～53)は、まとめと応用になっており、練習量の少ないまま、応用に入ることになるので、難易度が高い。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>(市民)手本にくせがなく、見やすい。朱色での筆の動き(流れ)を示した手本もわかりやすい。</li> <li>「目的に合わせて書こう」(pp.4～5)は、ひと目で実生活に書写の学習を生かそうというメッセージが伝わり、書写のねらい・学習の進め方が明記されているのがよい。</li> <li>全体に毛筆→硬筆→コラム(発展)の流れで統一されていてよい。</li> <li>(学校)「短歌を短冊に書く書式」(p.69)は、国語で短歌を創作する指導と並行して活用することができる。</li> <li>読みがなや筆順が示された字が多く、動画収録、学習手順の提示により、すべての生徒が学びやすく、文字を正しく書くことにつながっている。</li> <li>話し合ったことや考えたことを書く欄が用意され、学習の深まりに有効である。</li> <li>上から撮影の動画は生徒日線でわかりやすい。運筆などを動画で視覚的に確認することができるようになっている。</li> <li>行書の学習では、「考えよう」で「～させた結果、速く書くことができた」など、速く書くことができるポイントを最後に確認できるようになっている。</li> <li>イラストや写真が効果的に使われ、学習内容や活動内容が理解しやすい。</li> <li>学年ごとにページが色分けされており、分かりやすい。</li> <li>硬筆での行書学習において、スモールステップの手立てがほしい。</li> <li>「コラム」(p.86)の「発展」という文字が小さく、目次にも明示されていないので、発展的な学習内容であることが分かりづらい。</li> </ul>

	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>半紙形を維持した紙面によって、書き始めの位置や字形の整え方、文字の大きさと余白の取り方が分かりやすい。</li> </ul>
2 選 定 の 観 点		<ul style="list-style-type: none"> <li>(学校)「学習の進め方」(p. 8) は毛筆が硬筆による書写の能力の基礎を養うという根幹を押さえている。</li> <li>(学校) 国語・数学・理科・社会・総合的な学習の時間など、各教科との関連を図っている。 pp. 30～36 他教科の学習に活用できる。 p. 82 新聞・ポスター・案内状について掲載されている。 pp. 100～112 この書式集を書写で扱くと、様々な学習場面で好都合である。 pp. 110～111 他教科につなぐことができる。</li> <li>(学校)「学習を生かして書く」「学校生活を生かして書く」「書写の教室」では、習得した書写の力を各教科の学習活動や日常生活に生かすことができるよう、関連付けられている。</li> </ul>

発行者名		光 村 図 書 出 版
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲 及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毛筆では、第1学年で楷書の基本点画、行書の基礎が押さえられており、第2、3学年の行書も発展学習にふさわしい課題が用意されている。</li> <li>・ (学校) UD書体の紹介があり、筆記ではなく、パソコン使用の際の文字の選択のありかたを考えることができる。将来の社会を見据えている。</li> <li>・ 第3学年の「効果的に文字を書くこと」についての学習内容が分かりにくい。</li> </ul>
	(2) 内容に関する 配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ (学校) 「学習の進め方」(p.36) は主体的、課題解決的な学習が重視されている。</li> <li>・ 漢字字典には、楷書と行書を比較した「人名漢字表」も掲載されており、生徒が自分の記名に対応しやすい。</li> <li>・ 毛筆について、学習する内容が絞られており、「点画の変化」などのタイトルの文字、「考えよう」など活動内容の文字も大きく、ひと目でわかる。</li> <li>・ 毛筆では、筆圧が数字で示され、文字を書く際の力加減が分かりやすいよう配慮されている。</li> <li>・ 行書の見開きのお手本には名前が書かれているため、字の大きさや配置が分かりやすく、個に応じた指導への配慮がされている。</li> <li>・ 楷書の学習では、毛筆課題の解説があまりされておらず、ポイントが分かりづらい。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行書学習の組み立て方・課題の内容・分量が適切であり、行書の確実な上達が見込める。</li> <li>・ 必要な事柄が簡潔にまとめられており、情報量が最低限度であるため、支援を要する生徒にも配慮されている。</li> <li>・ (学校) 毛筆と硬筆の学習内容の分量・バランスがよい。</li> <li>・ 第1学年に毛筆の課題が多く、すべてを取り上げると授業時数に対してやや多めである。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ (学校) 教科書に「書写ブック」がつけられており、別冊を購入しなくても学習できる。</li> <li>・ 片付け方の動画があるのはよい。</li> <li>・ 「書写テストに挑戦しよう」(p.20) は、入試の実情に合っている。</li> <li>・ 「学習の窓」には目標に沿ったポイントが書かれており、学習の深まりに有効である。</li> <li>・ QRコードは、各ページに設けられており、生徒が学習内容を確実に身に付けることができるよう、自主的・自発的な学習を促すとともに、個に応じた指導に対して有効である。</li> <li>・ 「書写ブック」は、紙の耐久性や切り離した後の管理に課題がある。</li> <li>・ 目次の文字が小さく、詰め込みすぎている。</li> <li>・ 「楷書と行書と使い分け」で区切っているが「1学年と2学年の区別」(p.66) 「2学年と3学年の区別」(p.92) がわかりにくい。</li> <li>・ 「文字の使い分け」(p.96) で提示した明朝体の「は」は、2、3画目が連続しており違和感がある。下部掲載の「永」で比較した方が明朝体とゴシック体の使い分けを学ぶのに効果的である。</li> <li>・ 年賀状の例(p.118)に日付がないのは、はがきの基本形式と異なり、指導上不都合である。</li> <li>・ 「私の好きな言葉」(p.105)で例として示した伊藤美誠の筆跡は、文字を正しく整えて書く指導を行う書写学習の資料としてそぐわない。</li> <li>・ 動画は、斜めからの撮影であり、全体の形が確認しにくい。</li> </ul>



	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 紙面の構成がすっきりしており、使いやすい。</li> <li>・ (学校) 印刷が鮮明であり、文字の大きさ、字体、行間及び製本の様式や材料などが適切である。</li> <li>・ 「書写ブック」の点画が変化している部分は、赤で色を変えていて、わかりやすい。</li> <li>・ (学校) 「速さを比べてみよう」(pp. 52～53)の構成や「全国文字マップ」(pp. 92～95)の解説等は、やや粗雑な印象を受ける。</li> <li>・ 「楷書と行書の使い分け」のイラスト(p. 87)は、パンフレットではなく、リーフレットである。</li> </ul>
2 選 定 の 観 点		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「学習の進め方」(p. 36)毛筆が硬筆による書写の能力の基礎を養うという根幹を押さえている。</li> <li>・ 「書写ブック」が付いており、毛筆で学習したことを、硬筆で繰り返し練習することができ、文字を正しく整えて書く力を高められる。また、学習内容を確実に身に付けることができる。</li> <li>・ (学校) 国語科や他教科、道徳、日常生活と関連付けながら、書写の能力を育成することができる内容となっている。</li> </ul>

令和三年度使用中学校

教科用図書採択に関する教科用図書選定会議

専門調査研究会（地理）

報告書

令和2年 7月 8日

北九州市教育委員会

教育長 田島 裕美 様

専門調査研究部会 種目 ( 地理 )

部長 和田 義則 

令和3年度使用中学校教科用図書の調査研究について (報告)

このことについて、当専門調査研究部会は、慎重に審議を重ね、別紙のとおり調査研究結果を  
まとめましたので報告します。

副部長 坂本 浩 

委員 渡邊 益大 

委員 石川 直人 

委員 羽藤 千晴 

委員 松本 稔 

委員 印

委員 印

委員 印

委員 印

発行者名		東京書籍
観点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の略地図の描き方 (p.30) は、詳細に分かりやすく解説されている。</li> <li>(市民) 防災・減災の取組 (pp.164~167) やアイヌ民族の文化 (p.268) について掲載されており、防災や安全についての意識や多文化共生の重要性を意識できるものとなっている。</li> <li>「日本の諸地域」において、地域の特色をとらえる視点 (p.184) が整理され、各地域をとらえる効果的な視点が設定されている。</li> <li>世界の略地図の描き方 (p.18) は、ポイントが十分に押さえられていない。</li> <li>(市民) 地球的課題については、SDGs との関連や各地域の特徴的な課題をとらえにくい内容となっている。</li> <li>(学校) 領土問題について、歴史的にも国際法上も我が国の主張が正当であることが伺える記述がない。特に、北方領土について (pp.26~27)、「ロシアが不法に占拠しており、日本は抗議を続けている」という記述はあるが、「返還を求めている」という記述がない。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元全体を貫く「探究課題」(p.7等) が、導入で的確に設定されているので、単元全体の学習に見通しをもたせ、生徒の主体的な学習を促すことができるように配慮されている。</li> <li>各章の導入部 (p.6等) で、小学校社会科で学習した内容を用語や写真で振り返る活動が設けられ、小学校の学習から中学校の学習へと円滑に接続できる。</li> <li>「みんなでチャレンジ」(p.31等) が適宜設定され、適切な思考ツールが紹介されているので、対話的な授業が効果的に実践できるようになっている。</li> <li>時差 (p.23) や等高線 (pp.144~145) の解説など、丁寧に解説されているが文章が長く理解しづらい。また、ヨーロッパ地方に日本の位置が示されていないなど、細やかな配慮が不足している。</li> <li>QRコードを活用しないと、他分野との関連がとらえにくい。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>寒帯を1単位時間で設定するなど授業時数からみて適切な分量である。</li> <li>日本の自然災害の対応・復旧では、自助・公助に関する内容が不足している。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>写真と地形図 (p.146) を並べたり、課題意識が高まる写真を掲載したりするなど、効果的な資料の配置が工夫されている。</li> <li>本文にキャラクターが配置されておらず、学習に必要な情報に集中できる。</li> <li>該当ページから直接QRコードを読み取ることができず、活用を図りにくい。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>本文と資料で背景が色分けされており、区別しやすくなっている。</li> <li>(学校) 特別支援教育の観点から、陰影などが極力控えられている。</li> <li>淡い色づかいになっており、資料が読み取りにくい。</li> <li>生徒氏名記入欄に学年・学級を記入する欄がない。</li> </ul>
2 選 定 の 観 点		<ul style="list-style-type: none"> <li>各単元の学習を、単元全体を貫く問いである「探究課題」と、その解決を補助する問いである「探究のステップ」、1単位時間の学習のめあてである「学習課題」の3段階の問いで構造化し、細かいステップで課題を解決していくことで、思考・判断した内容を、適切に表現する力を身に付けられるようになっている。</li> <li>まとめの活動において、『先生』になって小学生に伝えよう (p.194) や『地球サミット』の参加者になって持続可能な地域像を考えよう (p.206) などの課題が適宜示され、主体的に社会の形成に参画しようとする態度や実生活へと結びやすいものとなっている。</li> <li>各単元のまとめにおいては、社会科として大切にしたい言葉の整理が不十分であり、基礎的・基本的な内容の定着が図りにくい。</li> </ul>

観 点		発行者名	教 育 出 版
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度		<ul style="list-style-type: none"> <li>近畿地方の学習の視点を歴史的背景にしていることは、第3学年修学旅行と関連させて深めることができる。</li> <li>日本の略地図の描き方 (p.27) では、東経135度の経線が強調されていないなど、ポイントが十分に押さえられていない。</li> <li>(市民) SDGsは「地理の学習を始めるにあたって」(冒頭Ⅳ) に記述があるだけで、各単元の学習との結びつきが十分ではない。</li> <li>「世界の諸地域」で取り上げる地球的課題について、北アメリカもオセアニアも他民族の共存の問題を取り上げており、他の課題設定が望ましい。</li> <li>竹島や尖閣諸島について、日本の固有の領土であることの正当性について歴史的なことにはあまり触れられておらず、「解決すべき領有権の問題は存在していない」という明確な記述がない (pp.24~25)。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> <li>「学習課題」、「確認」、「表現」(p.11等) が各ページに記載されるとともに、毎時間、表現活動ができるように配慮されており、1単位時間ごとの学習内容を確実に定着させることができる。</li> <li>(学校) 「地理の学習を始めるにあたって」(冒頭Ⅱ~Ⅲ) において、小学校社会科の振り返りと、中学校社会科を見通すことができ、小学校社会科との接続と関連を図ることができるように配慮されている。</li> <li>単元を貫く問いの工夫が足りず、単元全体を見通した問題解決的な学習の設定が難しい。</li> <li>時差を解説する図 (p.20) において、太陽の光による明暗が区別しにくいなど、教科書を活用して指導できるような配慮が不足している。</li> </ul>
	(2) 分量		<ul style="list-style-type: none"> <li>ヨーロッパの学習についてロシアを見開き2ページ(1単位時間) で取り扱うよう設定しており、冷帯から寒帯にかけての学習が充実している。</li> <li>言語活動等の工夫が少なく、学習のまとめの内容や表現の量が乏しい。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜		<ul style="list-style-type: none"> <li>用語解説 (pp.282~287) は、用語や関連ページが太字で見やすい。また、巻末の写真資料が充実しているので関連付けて学習を深めやすい。</li> <li>諸地域の学習では、地勢図が必ず掲載されており (p.50等)、地図帳を併用しなくとも地形的な情報を得ることができる。</li> <li>日本の気候において、地図の都市と雨温図の都市が一致していない (p.157)。</li> <li>QRコードが各章の最初のページにしか掲載されておらず、関連資料をすぐに検索することができない。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等		<ul style="list-style-type: none"> <li>地図の色が薄く、読み取りづらい。</li> <li>地勢図の黒の細字や河川名、平野名の青字や緑字は見にくい (p.50等)。</li> </ul>
2 選 定 の 観 点			<ul style="list-style-type: none"> <li>「地理の窓」(p.19等) は、学びを掘り下げ、視点を変えたり視野を広げたりでき、多面的・多角的な見方を身に付けることができる。</li> <li>「特設ページ」(p.64等) は、地域づくりや多文化共生から社会参画や持続可能な社会などを考えられるものである。</li> <li>(学校) 学習課題は、やや易しい課題となっており、生徒の学習状況に応じた到達規準が設定しにくい。</li> <li>学習のまとめと表現 (p.46等) では、語句のチェックと学習内容の確認がほとんどであり、学習した内容について、考察・議論する力の育成という観点から不十分である。</li> <li>(学校) 資料を読み取る視点の提示が少なく、地理的技能を高める上での不十分さがある。</li> </ul>

観 点		発行者名	帝 国 書 院
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度		<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の略地図の描き方 (p.12) について、ポイントが的確に解説されている。</li> <li>(市民) 巻頭や「未来に向けて」(p.69 等)、「地域の在り方を考える」(p.186 等) など、SDG s と関連させた内容が多く充実している。</li> <li>(市民) 環境・防災・共生を主題とする題材を十分に取り扱っており、持続可能な社会について生徒が考えられるものになっている。</li> <li>竹島や北方領土が我が国の固有の領土であることなど、我が国の領域をめぐる問題が的確に取り上げられている。また、尖閣諸島についても我が国の固有の領土であり、領土問題は存在しないことも明記されている (pp.20~21)。</li> <li>日本の略地図の描き方 (p.24) については、同緯度などポイントとなる内容が不足している。</li> <li>(市民) 学習内容として、公害克服などについて北九州市の事例が十分に取り上げられておらず、シビックプライドを醸成する上で不十分である。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> <li>「地理的分野の学習の全体像を見通そう」(巻頭7) により、日々の学習が教科や分野全体にどのように位置付けられているのかについて、生徒自身が見通しをもって学習に取り組むことができる。</li> <li>「章の問い」「節の問い」の単元を貫く問いや学習課題 (p.2 等) を設け、生徒が学習内容に見通しをもつとともに、「確認しよう」「説明しよう」(p.3 等) で振り返り活動が行えるので、自主的・自発的な学習活動を促すことができる。</li> <li>(学校) 巻末に用語解説や統計資料がなく、基礎的・基本的な内容を押さえる上で、配慮が不足している。</li> </ul>
	(3) 分量		<ul style="list-style-type: none"> <li>(学校) 教師が取捨選択して活用することができる資料が多く掲載されている。</li> <li>(市民) 1 単位時間で扱う学習内容に差があり、授業時数からみて難しい部分がある。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜		<ul style="list-style-type: none"> <li>QRコードが様々な項目で設けられ (p.3 等)、それぞれに関連した内容を取得することができる。</li> <li>諸地域の学習の冒頭においては、写真から地域を概観することができる「写真で眺める・・・州(地方)」が掲載され (p.48 等)、生徒の学びに向かう意欲を喚起することができるとともに、資料性が高く、授業での活用が可能である。</li> <li>等高線の解説 (p.136) などが図示され、分かりやすく記載されている。</li> <li>文字数が多く、生徒の読み取る力による差が出やすい。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等		<ul style="list-style-type: none"> <li>色合いが鮮やかである。</li> <li>小口部分を各単元で色付けし、ページ区分が分かりやすい。</li> <li>紙の色が濃いため、字が太く暗い印象をうける。</li> <li>地図中の国名が赤文字のみで見づらい (p.50 等)。</li> </ul>
2 選 定 の 観 点			<ul style="list-style-type: none"> <li>諸地域の学習における単元を貫く問いは、必ず「地域にどんな影響を与えたか」という形で掲載されており、何を考えるかが明確である。</li> <li>諸地域の学習では、章の冒頭に「序説」を設け、学習の内容や方法を概観することで、生徒の主体的に学習に取り組む態度の醸成に資するものとなっている。</li> <li>「声」(p.42 等) や「地域のあり方を考える」(p.186 等) のコーナーは、それぞれの地域における課題などを考えるきっかけとなり、地域の実情がとらえやすい。</li> <li>比較写真が適宜用意され、相違点や共通点から地理的な特色をとらえやすい。</li> <li>南アメリカ州の学習のまとめ (p.119) や九州地方の学習のまとめ (p.185) では、かなり詳しく掲載されていることから、生徒の思考を限定してしまうことが懸念される。</li> </ul>

観 点		発行者名	日 本 文 教 出 版
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「世界の諸地域」で取り上げる地球的課題 (p.43) については、各地域の特徴的なものが取り上げられている。</li> <li>・「日本の諸地域」において、近畿地方で歴史的背景を観点としている (p.192) ことは、第3学年の修学旅行で関連させて深めることができるためよい。</li> <li>・竹島や北方領土が我が国の固有の領土であることなど、我が国の領域をめぐる問題が的確に取り上げられている。また、尖閣諸島についても我が国の固有の領土であり、領土問題は存在しないことも明記されている。(pp.18~19)</li> <li>・世界や日本の略地図の描き方 (p.22) について、解説が難しくポイントがとらえづらい内容となっている。</li> <li>・(市民) SDG sについては、「日本の諸地域」のまとめでの記述程度 (p.262) であり、内容的に不十分である。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> <li>・1 単位時間ごとの学習課題と働かせる「見方・考え方」(p.2 等) が明記され、何を、どのように学ぶのかを明確にできる。</li> <li>・「アクティビティ」(p.81 等) では、思考ツールが適宜紹介され、学びを深めることができる。</li> <li>・ページの下方に小学校や他分野との関連が記載され (p.172・p.174 等)、系統的・発展的な指導ができるように配慮されている。</li> <li>・1 単位時間ごとの問いはあるものの、単元全体を見通した問いの設定がないことや各時間の話し合い活動の設定が少ないため、問題解決的な学習を繰り返しながら思考を深めていくことへの配慮が不足している。</li> <li>・日本の地域的特色において、造山帯や地震の多い地域についての資料が掲載されておらず、特色をとらえる上での配慮が不足している。</li> </ul>
	(3) 分量		<ul style="list-style-type: none"> <li>・(学校) 持続可能な社会について取り扱う内容 (pp.66~67) や地域調査の学習 (pp.118~137) など、授業時数から見て十分な内容が設定されている。</li> <li>・(市民) 防災・減災について、十分な内容が記載されている。</li> <li>・アフリカ州・南アメリカ州・オセアニア州が3 単位時間、我が国の産業構造の取り扱いが1 単位時間であることは、授業時数に照らして不十分である。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜		<ul style="list-style-type: none"> <li>・データへリンクできるQRコード (冒頭VII) や当該語句を主に取り扱うページが太字で記された索引 (pp.284~286) など、活用しやすい。</li> <li>・「日本の諸地域」の学習では、地域ごとに追究するテーマが示され (p.163)、多面的・多角的に考察する上で効果的である。</li> <li>・(学校) 生徒が考えを書き込めるスペースが確保されている (p.71 等)。</li> <li>・写真や資料について、一部小さく活用しにくいものがある。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・小口部分が各単元で色付けされており、ページ区分が分かりやすい。</li> <li>・グラフなどの諸資料では色使いや項目ごとの模様配慮がある。</li> <li>・地形資料が黒字になっており、読み取りにくい。</li> </ul>
2 選 定 の 観 点			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「スキルアップ」(p.11 等) や「地理+α」(p.13 等) などが適宜掲載され、地理的技能につなげたり、内容を深めたりできる。</li> <li>・「チャレンジ地理」(p.94 等) では、自ら調べたり、グループで議論したりする上で順序よく学習を進められるようになっており、説明し、議論する力を養うことができる。</li> <li>・単元を貫く問いについては、学習の結末が学習前に予測できてしまう部分がある。</li> <li>・各ページに掲載されている資料が少なく、調べまとめる技能を身に付ける上で不十分である。</li> </ul>

令和三年度使用中学校

教科用図書採択に関する教科用図書選定会議

専門調査研究会（歴史）

報告書



令和2年7月3日

北九州市教育委員会

教育長 田島 裕美 様

専門調査研究部会 種目 ( 歴史 )

部長 田内直彦 (印)

令和3年度使用中学校教科用図書の調査研究について (報告)

このことについて、当専門調査研究部会は、慎重に審議を重ね、別紙のとおり調査研究結果をまとめましたので報告します。

副部長 平田 淳 (印)

委員 阿部 浩明 (印)

委員 中西 雄一 (印)

委員 村上 悟史 (印)

委員 池園 あゆ美 (印)

委員 中川 竜二 (印)

委員 松村 央子 (印)

委員 印

委員 印

観 点		発行者名	東 京 書 籍
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度		<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科の目標達成に結び付く内容となっている。</li> <li>・学習指導要領に示す内容が過不足なく取り扱われており、生徒の発達段階に適している。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の2分野との連携のマークが充実しており、また、1年生には、問いの立て方がより平易になっており、発達段階に応じた配慮がみられる。</li> <li>・(学校) 各単元に「思考ツール」が設定されており、多面的・多角的に考察したことを書いたり、伝えたりする言語活動の充実を図ることができる。</li> <li>・(学校) 「資料から発見！」では、各時代の特徴的な絵画資料と資料を読み取るための段階的な問いがあり、生徒の自主的・自発的な学習を促すことができる。</li> <li>・(学校) 見開き1ページに、「学習課題」、「みんなでチャレンジ」、「チェック」、「トライ」、「見方・考え方」、「歴史にアクセス」などがあり、活動が多く感じられる箇所がある。(例：p34-35、p170-171、p214-p215など)</li> <li>・発展的な学習である「もっと歴史」は、読み物だけでなく問いや学習活動が設定されているため、生徒の負担が多いと感じる。</li> </ul>
	(3) 分量		<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の分量は、調べ学習の時間を6時間取得しても130時間(予備5時間)と授業時数から見て適切である。</li> <li>・単元及び学習内容に偏りはなく、全体的に調和がとれている。</li> <li>・近現代には、為政者の立場に寄った記述がやや多く、歴史の捉えが一面的になりがちなどところが見られる。(戦前、戦後、水平社など)</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習課題を追究するにあたって、資料、注、本文が効果的に関連づけられており、学習を進める上で活用しやすい。(p86、190、258等)</li> <li>・(学校) 単元や一時間の授業ごとに、「まとめの活動」が設定されており、自分の考えを再構成する場面が設定されている。</li> <li>・(市民) 小学校で取り扱った歴史上の人物を改めてトピックとして取り上げている。</li> <li>・見開き1ページの資料が多く、学習内容における「読み取る」の目的が不明瞭である。</li> <li>・巻末の年表に年号とできごと以外のことが多く書かれており見づらい。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・(学校) ユニバーサルデザインフォントが利用されており、視認性は良い。</li> <li>・(学校) カラーの部分が、落ち着いた配色であるが、ややくすんだ印象を受ける。</li> </ul>
2 選 定 の 観 点			<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的な見方・考え方について丁寧な解説があり、また、随所に歴史的な見方・考え方を働かせた資料の読み取りやまとめ、振り返りが設定されている。</li> <li>・「単元を貫く問い」をもとに節ごとの課題である「探究のステップ」、1単位時間の学習の「めあて」と、入れ子方式に問いが設定されており、ていねいに課題解決を図ることができる。</li> <li>・「基礎・基本の確認」と「要約・説明」という2段階で言語活動の充実を図るよう工夫されている。また、字数やキーワードなどの支援があり、記述の苦手な生徒でも取り組みやすい。(p85)</li> <li>・(学校) 各単元に、Xチャートなどの多様な思考ツールを用いた単元の課題解決の場面が設定されており、思考力・判断力・表現力の育成に適している。(p60、96他)</li> <li>・(学校) 単元最後の「まとめの活動」には、「トライ」や「みんなでチャレンジ」などが設定されており、複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断する力、説明する力を養うことができるものとなっている。(例：p60、p96、p146など)</li> <li>・本編で文化学習に取り組んだ後には、一つの資料を深く読み解くトピックが用意され、文化財や文</li> </ul>

化人を網羅するだけでなく、文化を学ぶ面白さや、奥深さを感じ取れる構成になっているので、我が国の伝統や文化を尊重する態度を養うことができる。

- ・「もっと歴史」や「歴史にアクセス」にSDGsの視点や現代的な諸課題の解決について具体的な資料が明示されたり、人権、環境などの視点がマークとしてつけられたりしており、よりよい社会の実現に向けた考察ができるよう配慮されている。
- ・「読み取る」「考える」「まとめる」などの思考力や表現力を育成する問いが示されているが、1単位時間の学習ということを踏まえると活動内容が多い。
- ・各ページに設定されている学習課題が、「どのように」「どのような」という問いの設定が多く説明的な知識に偏ってしまう。

観 点		発行者名	教 育 出 版
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度		<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科の目標及び内容に準拠したものとなっており、難易度も適切である。</li> <li>・学習指導要領の内容について、過不足なくまとめられている。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「小学校マーク」や地理・公民的分野に関連する項目が、分かりやすく明記されており、系統的・発展的な指導が行えるように配慮されている。</li> <li>・「学習のまとめと表現」については、自分の言葉で表現することができる「書く」活動は多いが、意見交換や練合いなどの題材は少なく、「対話的」という観点からは言語活動としてやや不十分である。</li> <li>・問題解決的な学習のページは用意されているが、キーワードなどの記載がなく、記述や説明の苦手な生徒に対する配慮がない。(p205-206)</li> <li>・「歴史を探ろう」というトピックとして挿入されている「発展的な内容」はやや難しいものが多い。しかし、歴史に興味をもつ生徒には読みごたえがある。</li> </ul>
	(3) 分量		<ul style="list-style-type: none"> <li>・一単位時間の文章量が簡潔にまとめられていて、表現も適切である。</li> <li>・(学校) 予備時間の設定がないため、教師が生徒の実態に応じて弾力的に指導を行う時数が限られる。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜		<ul style="list-style-type: none"> <li>・(学校) 各ページのタイトル部に「時代スケール」が示されているので、生徒が学習する際にどの時代の学習をしているのか、すぐに理解しやすい。</li> <li>・適切な資料が適切な位置、分量で掲載されており、また、小学校との関連や重要文化財、国宝等のアイコンが見やすく、ユニバーサルデザインの観点から見ても使用しやすい。</li> <li>・各章末のまとめの3ページ目に時代の特色と前時代の特色とを比較して考察する問いを設定したり、次の時代の扉ページと隣合わせで配置したりするなど、時代の転換をとらえやすくしている。</li> <li>・デジタルコンテンツ「まなびリンク」が用意されているものの、データベースなどへのリンク集に過ぎない。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・(学校) ユニバーサルフォントの使用や行間が適切で、非常に見やすい。</li> <li>・史料の説明文の文字頭が揃っていないところがあり、読みづらい。(p173の5、175の7)</li> </ul>
2 選 定 の 観 点			<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の歴史学習とのつながりが強く意識できる。</li> <li>・導入の部分に、歴史学習の要となる「歴史的な見方・考え方」が平易な言葉でわかりやすく解説されている。</li> <li>・見開き1ページの中に、「歴史の技」や「読み解こう」などが設けられており、資料を読み取る力や資料活用のスキルを身につけ、歴史事象を考察しやすくなっている。(p171)</li> <li>・(学校) 古代ローマや市民革命期のヨーロッパなどの民主主義の来歴についての資料が充実している。さらに、「歴史学習の終わりに」では、SDGsについて取り上げ、主体的に現代的課題について自分たちに何ができるのかを考えて終わるような工夫が見られる。</li> <li>・各ページに学習課題の記載はあるが、単元を貫く問い(探究課題)の設定がなく、単元を通しての課題解決が図れず、大きな歴史の流れをとらえにくい。</li> <li>・各章末に設定されている「学習のまとめ」が知識・理解に関するまとめが多く、各時代の特色を多面的・多角的に考察したり、他時代との比較をしたりするものになっていない。</li> </ul>

観 点		発行者名	帝 国 書 院
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領と照らし合わせても、内容の範囲は適切であり、資料や文章の難易度も適切である。</li> <li>・学習指導要領に示す内容が過不足なく取り扱われており、内容の程度も生徒の発達段階に応じている。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「小学校」や「地理」「公民」といった他分野、「SDG s」との関連が示されている。</li> <li>・(学校) 各単元や学習課題のまとめで自分の言葉で説明する場面や、「タイムトラベル」や「多面的・多角的に考えてみよう」などの課題探究の場面があり、言語活動が充実している。</li> <li>・言語活動に関する課題では「書き出そう」「説明しよう」が多く、対話を促すような題材や課題は少ない。</li> </ul>
	(3) 分量		<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の分量は授業時数から見て適切である。</li> <li>・為政者だけでなく、民衆の視点や経済、文化など多くの視点から時代や事象の考察ができ、多面的・多角的に学習を進められる構成になっている。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜		<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料が豊富に掲載されているため、教科書の資料だけで十分に多面的・多角的に課題を追究することができる。</li> <li>・SDG sのマークがコラムにあり、歴史学習の中でも現代的課題を意識するように工夫されている。</li> <li>・巻末の年表では、図、資料をいれており、当時の仕組みなどがわかりやすい。</li> <li>・(学校) 本文中の内容以上の情報が詰め込まれ、余白が少ないページが散見されるため、情報量が多いと感じる。(p224 第二次世界大戦参戦国)</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・(学校) 隣接する図やグラフが、はっきりと異なる色で配色されておりみやすい。</li> <li>・(学校) ユニバーサルデザインフォントが使用されており、文字は非常に読みやすい。</li> </ul>
2 選 定 の 観 点			<ul style="list-style-type: none"> <li>・(学校) 単元を貫く問い(「章の問い」「節の問い」「学習課題」)、言語活動を備えた学習の振り返り(「章の学習を振り返ろう」「節の問いを振り返ろう」「確認しよう」「説明しよう」)などを設定しているので、段階的に学習課題を追究する学習活動を行うことができる。</li> <li>・「章の問い」「節の問い」「学習課題」の設定が、具体的でわかりやすく、若年教員が「めあて」を考える際の手がかりとすることができる。</li> <li>・(学校) 「主体的な学び」を実現するために、紙面全体にわたる大きなイラストから各時代を概観する「タイムトラベル」がある。</li> <li>・(学校) 「技能をみがく」コーナーが段階的に12テーマ設定されており、歴史に関する情報を調べ、まとめる技能が身につくようになっている。</li> <li>・(学校) (市民) 人権に関するコラムが17か所も設けられており、人権意識を高めることにつながると考えられる。</li> <li>・(学校) 「多面的・多角的に考えてみよう」というコラムが設けてあることで、複数の立場や意見を踏まえて歴史的な事象について考察する力を養うことができる。(p144-145、188-189、230-231)</li> <li>・歴史的な見方・考え方のページが冒頭(p12)のみ掲載である。子どもが意識して歴史的見方・考え方を働かせたり、教師が意識して指導したりするには取り扱いとしてうすい。</li> <li>・課題や問いが具体的ではあるが、一問一答の体になっていることは否めず、生徒の多面的・多角的な考察を促すとは言い切れない。ゆえに、生徒がいくつかの選択肢の中から公正に何かを選択する、という活動には至りにくい。</li> </ul>

観 点		発行者名 山 川 出 版 社
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界史も充実しており、日本がどのような歩みを経て現在に至ったかを、世界と日本の関わりからわかりやすく理解でき、教科の目標達成に結び付く内容になっている。</li> <li>(学校) 受領、天慶の乱、海舶互市新令、神仏分離令、公武合体など、高等学校で取り上げられる事象が取り上げられ、中学生の発達段階では難しい内容になっている。(p52、p65、p132、p169、p180等)</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>各ページの「ステップアップ」や、章末のまとめの課題は、端的でわかりやすく、多面的・多角的に考察が可能な内容であり、生徒のまとめのバリエーションが増え、言語活動が行いやすいといえる。</li> <li>(学校) 文化財の二次元コードからNHK for Schoolのページに移動することで、文化財に関する情報を動画で視聴することができ、生徒の自主的・自発的な学習が促されるように工夫されている。(p98等)</li> <li>発展的な学習「歴史にアプローチ」は、生徒の身近なテーマ(漫画)等が設定されており、興味を持って学習することのできる内容である。そのため、歴史の学習が苦手な生徒の意欲・関心を引き出せる内容になっている。</li> <li>他分野・他教科との関連性や小学校の学習内容との関連が示されておらず、系統的・発展的な指導を行うための配慮に欠ける。</li> <li>資料の読み取りの手がかりとして、注目すべきポイントが記載されているが、質問内容が生徒の発達段階よりも難しいものが多い。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体の分量は時数内に収まっている。</li> <li>(学校) 学習内容や文章量がやや多い。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>史料や系譜、絵や写真など資料を豊富に配置している。また、大きく見やすく掲載した図版には、発問を付け注目すべき部分を示唆している。</li> <li>生徒が苦手な歴史的分野でのレポートの作成や課外での学習についての記述が豊富であり、使いやすい。</li> <li>「歴史を考えよう」「歴史へのアプローチ」「地域からのアプローチ」などでは、取り上げた美術作品や史跡などから、課題を話し合い考察しながら歴史を学ぶことができるようにしている。</li> <li>本文の文末が言い切り調で、文章表現が硬く、「幕府の勸告と調停」のように使用されている語句も中学生にとってはやや難解なものが多い。(p84)</li> <li>資料の難易度が高く、授業での活用が困難なものがある。(p72 下地中分図、p105 ルターの95提題等)</li> <li>巻末に年表がないため、全体の歴史を振り返る時に活用しづらい。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>図版が大きく地図やグラフはカラーユニバーサルデザインに配慮され、読み取りやすい作図となっている。¥</li> <li>(学校) フォントが小さく、振り仮名も薄く読みづらい。</li> </ul>
2 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>各時代の特色や時代の転換点をとらえるのに、各章末の「まとめ」に推移や因果関係、差異などに着目させる発問が工夫されている。</li> <li>国際関係が図式化されており、各国の関係や勢力を比較しやすい。(p214、p242等) 世界とのつながりをイメージしながら、日本の歴史を捉えやすい。</li> <li>多くの海外の出来事が掲載されている「世紀の世界」や「歴史を考えよう」「歴史へのアプローチ」の内容は難易度がやや高めではあるが、関心のある生徒にとっては学びへの探求心を高めるものである。</li> <li>文化の学習ページだけにとどまらず、文化財の写真や資料がふんだんに使われており、我が国の歴</li> </ul>	

史に愛着を持てるよう工夫がされている。

- ・「身近な地域を調べよう」や「地域からのアプローチ」で、地域の歴史を展開や文化財保護の取り組み等を通して、歴史を学ぶことの現代的な意味を考えさせることができる。(p46、p58、p68、p150、p205、p250、p276)
- ・単元を貫く問いが設定されていないので、生徒が見通しをもって課題を追究したり、大きな時代の流れを理解したりしにくい。
- ・(学校) 各章末のまとめに因果関係や推移、差異に着目させる発問が用意されているが、あくまで学習内容の整理にとどまっており、時代の特色を自分の言葉で表現するような問いは設定されていない。
- ・課題について話し合い、考察しながら学ぶページとして「歴史を考えよう」のコーナーが設けられているが、資料から読み取れることについて意見交換をするような内容が多く、複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断するような学習が少ない。(p56、p134)

観 点		発行者名	日 本 文 教 出 版
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領と照らし合わせても、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図れる内容となっており、資料や文章の難易度も適切である。</li> <li>・ヒントの数、ステップの数、文字数などが豊富で、学習課題や本文の内容は、その学年の発達段階に適応したものになっている。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> <li>・(学校) 小学校の学習内容や他分野との関連をページ下部に示している。</li> <li>・(学校) 資料を基に選択・判断しながら時代の転換期を捉えることができる「歴史にチャレンジ」や「アクティビティ」を設けており、言語活動の充実を図っている。</li> <li>・基本用語解説が本文ページ内にあり、生徒の学習補助に役立つ。</li> </ul>
	(3) 分量		<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容が精選され、予備時数が20時間と十分に配当されて、生徒の実態に即して弾力的に授業計画を立てたり、評価に時間を費やししたりしやすい。</li> <li>・見開き2ページで1授業時間を原則として構成している。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜		<ul style="list-style-type: none"> <li>・(学校) 1単位時間ごとに、学習課題のすぐ下に「見方・考え方」の欄を設けており、「比較」「推移」「つながり」などの思考スキルも示されているので、歴史的な見方・考え方を働かせやすい。</li> <li>・(学校) p.200～203において、現行とは異なり、帝国議会に関する学習と不平等条約改正に関する学習が別単位時間の学習として再編されるなど1単位時間の学習として、まとまりをもたせた構成となっている。</li> <li>・(学校) 巻末の年表は、写真資料や学習単元も明記されているので、自学自習に使いやすい。</li> <li>・単元のまとめには、答えのページが示してあり、生徒が自学自習を行うのに使いやすい。</li> <li>・各ページの最後にある「深めよう」や「確認」には、ヒントやキーワードがあまり用意されておらず、記述の苦手な生徒は取組みにくいところがある。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・(学校) 歴史的な文化作品や遺産の写真などの図版が大きく掲載されている。</li> <li>・隣り合う色がはっきりと違いの分かる配色をしており、色覚特性の生徒への配慮がなされている。(p.168:アメリカ合衆国の領土の拡大の地図)</li> <li>・(学校) ユニバーサルデザインフォントが使用されており、行間も適切で見やすい。</li> </ul>
2 選 定 の 観 点			<ul style="list-style-type: none"> <li>・(学校) 歴史的な見方・考え方を身につけるために1単位時間ごとに、学習課題のすぐ下に「見方・考え方」の欄を設け、さらに「比較」「差異」「推移」「つながり」など視点を掲示しているため、歴史的な見方・考え方を働かせやすい。</li> <li>・生徒が「主体的・対話的で深い学び」を通して、「時代の特色」を捉えられるように、第2～6編では、「見通す(導入ページ)」→「考察する(本文)」→「考察する(特設)」→「ふりかえる(まとめページ)」という構成がされている。</li> <li>・(学校) 各編の導入ページに「めあて」として単元を貫く問いが設定されており、各時代の学習に対して生徒が見通しをもつことができるが、単元の学習課題があらかじめ設定されており、主体的に課題を発見できるような導入の工夫があまりない。</li> <li>・生徒が基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着できるように、見開き2ページの中で、「学習課題」(一単位時間で学ぶこと)や「見方・考え方」(どの視点や方法に着目するのか)、「深めよう」(学習課題を深める問い)、「確認」(学習課題に対応する問い)が設けられている。</li> <li>・我が国の歴史の背景となるような世界の歴史を理解するため、各編・章の導入ページに世界地図が設けられている。</li> <li>・「地域調べ」では、北九州市の公害からの復興について2ページにわたって取り上げられており、北</li> </ul>



九州市の生徒のシビックプライドを育成するうえで大変有効である。

- ・(学校) 時代の特色をとらえることをねらいとした「アクティビティ」が設けられており、情報を読み取り、比較し、考察する力を育む活動が設定されている。(例：p53 文字の比較、p105 法の比較など)
- ・(学校) コラムとして「先人に学ぶ」のコーナーを設け、さらに、生活や文化の発展に寄与した人を取り上げるなど、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物などを尊重しようとする大切さについての自覚が深められるようになっている。
- ・(市民) 各時代の人々の営みに関する題材において、女性の生きる姿を具体的に描くことに力点を置いている。
- ・世界の歴史の内容が用意されているが、特に古代から中世においては単独で構成されているものが多く、日本の歴史との関連や影響が理解しづらい。
- ・各ページでのまとめが「説明しよう」という事実的知識を追うのものであり、複数の立場からの意見を踏まえ「選択」できる内容になっていない。

観 点		発行者名	育 鵬 社
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領と照らし合わせ、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図れる内容となっており、資料や文章の難易度も適切である。</li> <li>・(学校)「黄禍論」や「聖断」といった用語など中学校の内容としてはやや詳細で、生徒の発達段階に合わない。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> <li>・(学校) 一時間の学習内容を確認するための設問があり、学習内容をまとめたり、「ターニングポイント」のトピックでは、議論が行いやすいテーマを設定したりと、「書く」や「話す」等の言語活動が充実している。</li> <li>・「歴史ビュー」や歴史学習の幅を広げ豊かにする「歴史ズームイン」、歴史を動かした人物を紹介した「人物クローズアップ」、「歴史ズームイン」や「このころ世界は」など、豊富なコラムで、生徒の興味関心を引き付け、自主的・自発的な学習を促している。</li> <li>・1単位時間の学習課題を解決する上で必要となる歴史的な見方・考え方に気づかせる支援がなく、また、各単元のまとめページにおいて、説明を記述させる際、キーワードや例が少ないため、記述の苦手な生徒に対する配慮が足りない。</li> </ul>
	(3) 分量		<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の分量は授業時数から見て適切である。</li> <li>・授業時数から見て内容はバランスが取れている。</li> <li>・活動、トピックも時数としてカウントしているため、予備時間が設定されておらず、教師が生徒の実態に応じた柔軟な指導が行いにくい。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜		<ul style="list-style-type: none"> <li>・挿絵や写真、図等が、本文と関連を持たせて用意されている。本文、説明文、資料などは、学習内容と関連があり、有効に使用することができる。</li> <li>・写真や絵画資料など、歴史資料の読み取りに丁寧な解説があり、生徒の興味関心を高めることができる。</li> <li>・見開き1ページが1授業時間と設定されており、その構成は共通しているが、資料が本文部分にまでかかっているページがあり見づらい。(例：p97、113、119)</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・印刷が鮮明である。</li> <li>・(学校) フォントが小さく、行間が狭いため読みづらい。</li> </ul>
2 選 定 の 観 点			<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史の課題に対して主体的に向き合えるように、また「他人事」を「自分事」として捉えられるように、過去・現在・未来という時間軸(「タテ軸」)の視点をもって考えることができるテーマを「歴史ズームイン」などで設けている。</li> <li>・日本の大きな歴史の流れで構成された各章に「このころの世界は」のトピックが設けてあり、日本の時代の転換と世界の歴史の関連がつかみやすい。</li> <li>・文化の学習では、代表的な作品だけにとどまらず、関連する作品や活躍した人物が多く取り入れられ、日本の文化を広く学ぶことができる。</li> <li>・各章に1つずつ「歴史のターニングポイント」や博物館のレイアウトを考える活動が設けられており、時代の転換の様子を複数の立場や意見を踏まえて、選択・判断したり、議論したりする力を養うことができる。(p64、98、150、210、252、286)</li> <li>・身近な地域の歴史について調べる「地域の歴史を調べよう」や偉人の足跡を紹介した「人物クローズアップ」、各地域の文化遺産を紹介している「歴史ビュー」等を設け、郷土の歴史に対する興味・関心を引き出したり、郷土を愛する態度を養ったりすることができる。</li> <li>・領土問題を取り扱った「歴史ズームイン」における、近隣諸国との領土に関する説明が法的根拠に基づいており、生徒の視点からも理解しやすい。(p266-267)</li> <li>・各時代に、同時代を生きた外国人が、日本や日本人をどう見ていたのかを紹介し、国際理解を深めることができるように工夫している。</li> </ul>

- ・(市民)「献身」「公共」「勇気」「勤勉」などの美德を体現した人物の生き方や、各時代を代表する15人の女性たちの生き方を掲示している。
- ・各章のまとめのページの最後に、その時代の特色をまとめる課題が設定されているが、「虫の目で見ると」のページに「この時代は・・・の時代！」とすでにまとめが示されている。
- ・単元に示された導入に示された課題と、学習のまとめ、振り返りとの間に一貫性がないため、単元を貫いて課題解決が図れない。
- ・歴史的な見方・考え方をを用いる点では、その内容についての解説や使用例はなく、本文で唐突に用いられているため、継続して見方・考え方を働かせることが難しい。
- ・歴史的な事象や、伝統と文化などの学習が単発的であり、推移や変化を継続的に学習する構成になっていない。

観 点		発行者名	学 び 舎
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領の内容と整合性が図られており、教科の目標達成に結びつく内容になっている。</li> <li>・(学校) アブ・フレイラ遺跡や火縄銃の伝来での倭寇(後期倭寇)の記載など、中学生にとっては難しいと思われる内容があり、生徒の発達段階に即していない。(p14p92等)</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> <li>・調べ学習やインタビューの聞き取り方や、討論の方法が丁寧に解説されており、言語活動の取り掛かりとして優れている。</li> <li>・(学校) 学習課題の設定や課題意識の育成、内容の定着の工夫を図るために、章の冒頭に「章の扉」、章末に「章をふりかえる」、部末に「学習のまとめ」、特設ページとして「歴史を体験する」を設けている。</li> <li>・他教科や他分野、小学校との関連を図る工夫や配慮が見られない。</li> <li>・(学校) 重要語句が一目で認識できず、語句解説も少ないなど、学習が苦手な生徒にとっては学習補助の手段となるものが少ない。</li> </ul>
	(3) 分量		<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時数から見て、全体の分量、内容は適切である。</li> <li>・ドイツ帝国やハンガリーの独立に1時間、市民革命に4時間、第2次世界大戦敗戦までに15時間など、学習内容の時数に偏りが見られる。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜		<ul style="list-style-type: none"> <li>・A3サイズでタイトルや図、資料が豊富に配置されており、学習が深まるよう工夫されている。(P.100他)</li> <li>・(市民) 写真や絵画資料など、生徒の興味や関心を引くものが多い。特に見開き左上の導入の資料とタイトルは生徒の疑問や関心を呼ぶよう工夫されている。</li> <li>・図版は豊富にあるが、本文の関連する箇所に図版番号が付されていない。</li> <li>・発展的な学習内容の提示はやや分かりにくい。</li> <li>・巻末の年表が縦書きに羅列してあるため、時代区分などの認識がしづらい。また、時代区分の仕方が専門的で難しい。</li> <li>・各章の導入の資料は、様々な事象や特徴を取り上げているが、網羅的であり、単元を貫く問いの設定には向かない。また設定してある問いも抒情的であり、生徒が学ぶべき内容が明確にとらえにくい。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・印刷が鮮明で、白紙面と文字のコントラストが、とても見やすい。</li> <li>・(学校)(市民) A4判と縦長く、持ち運びに不便であるとともに、ノートや資料集などと一緒に机に置くと手狭である。</li> </ul>
2 選 定 の 観 点			<ul style="list-style-type: none"> <li>・各章の初めに、その時代の地図を用いたさまざまな地域の様子が示されており、またどの章でも同じ地図が用いられており、歴史的な事象を推移や関連で捉えることができる。</li> <li>・為政者だけでなく、民衆や男女など、さまざまな階層や立場から活躍した人を取り上げており、歴史的な事象を多面的・多角的に考察できる。</li> <li>・各章のまとめが充実しており、史料を読み、対話・討論することで公正に選択・判断する力、説明する力、議論する力を養う工夫がされている。(P.178~181)</li> <li>・(市民) 各時代の人々の営みに関する題材において、女性の生きる姿を具体的に描くことに力点を置いている。</li> <li>・歴史的な見方・考え方を養う資料等が設定されているが、明確な提示はない。</li> <li>・各部のまとめのページに、グループ活動等を通して深められるような課題を設定しているが、自分でまとめた内容を単にグループやクラスで発表するような活動に過ぎず、議論をするような課題ではない。</li> <li>・1単位時間のまとめとしての課題や活動が示されておらず、学習を振り返る活動ができるように配</li> </ul>

慮されていない。各部を貫く問いが、その時代の特色をとらえられるような問いになっておらず、章の学習課題などもなく、学習に見通しをもたせにくい。

- ・時代ごとの文化の特色についての記載がわかりづらく、代表的な事例を取り上げて特色を考察させることが難しい。(P. 44、P. 50)
- ・東アジアに関する内容が細かい部分が多い。(p 56～57、72～73、184～185 など)